

日本出版クラブ「洋書の森」主催
翻訳者のためのウィークエンド スキルアップ講座 第15回

児童書・YA翻訳の 現場から

翻訳家 **原田 勝**

小説、ミステリー、ノンフィクションと続いてきたウィークエンドスキルアップ講座ですが、お待たせしました！今回は、児童書やYAの翻訳を中心に活躍されている原田勝氏を講師にお招きします。

先日発売された原田氏の最新翻訳作『ハーレムの闘う本屋 ルイス・ミショーの生涯』（あすなろ書房）は中高生を対象読者として出版されたものですが、内容はその垣根を越えています。社会問題はもとより、本の役割や書店のあり方などを考えさせられる作品です。一般の読者にも十分に読み応えのある本でしょう。この本の企画は、実は原田氏ご自身が出版社に持ち込んだものなのです。

私たちは、どの翻訳ジャンルに進むべきか、いかにして情報を得るか、報酬はいくらくらい受け取れるのか……。本選びから、レジュメ作成、出版社への持ち込みまで一貫して実践されている経験豊富な講師が、皆さまのそのような疑問にお答えします。児童文学に限らず、あらゆる分野の翻訳者にとって実践的なヒントが得られる講義になることはまちがいありません。

今回の課題には二つのテーマを設定しました。「小学校5、6年生が楽しく読める訳文に」と「訳注や解説的翻訳を考える」です。翻訳が初めての方も自信のある方も、ぜひ挑戦してみてくださいね。受け付けは先着順ですので、お申込みはお早めどうぞ。

◆ 参加要項 ◆

日 時

2015年4月11日（土） 15：00～17：00（受付開始14：30）

講 師

原田 勝 氏（翻訳家）

会 場

日本出版クラブ会館・セミナールーム
（新宿区袋町6番地 都営大江戸線牛込神楽坂駅より徒歩2分）
<http://www.shuppan-club.jp/>

参加費

講座 2,100円

定 員

60名（申込順、定員になり次第締切らせていただきます）
「洋書の森」未会員の皆さまもご参加になれます
希望者による恒例の交流会（参加費3200円・食事代を含む）を講師同席のもと17：30より、
会場1Fレストラン・ローズルームにて開催いたします
参加ご希望の方は同時にお申込みください

お申込み・お問合せ

お名前・洋書の森会員番号（会員の方）・ご連絡先電話番号、アドレス・参加人数を明記して「4/11（講座のみ or 講座・交流会とも）参加希望」と以下アドレス宛てに E-mail にて送信してください

（財）日本出版クラブ内 「洋書の森」事務局
E-Mail : yousho@shuppan-club.jp TEL 03(3260)5271

◆講義内容◆

(1) 児童文学・YA（ヤングアダルト）文学の特徴

●ジャンルではなく読者対象年齢。●本の買い手と読み手が異なる。●「〇〇歳から」は対象年齢の下限。上限ではない。●児童書を取りまく人たち。●YA翻訳のおもしろさ、むずかしさ。●絵本にかかる労力。

(2) 仕事に結びつけるために

●自分は、どんな子どもの本が好きか？ ●児童書というくくりで出される情報の利用。●出版社の特性をつかむ。●持ち込みの可能性。

(3) お金の話

●印税率は？ 増刷の可能性は？ ●図書館の存在、課題図書のこと。

(4) 翻訳上の注意

●対象年齢への配慮。●漢字かなの処理、訳注やルビについて。

(5) 課題解説

講義の参考にするため、参加者のみなさんには、別紙の課題を提出していただくと助かります。ただし、添削・返却は致しませんので、当日はご自分の訳文を、別途、お手元に準備してください。また、一部の方の訳文を、お名前を伏せて紹介する場合があります。

★ 事前提出をお願いするもの

●課題訳文

●アンケート（アンケートだけの提出も大歓迎です。）

①児童書（読み物）・絵本・YA作品のうち、とくにどの翻訳をやってみたいですか？ その理由はなんですか？

②これらのジャンルで、好きな作品を挙げてください。いくつでもかまいません。

③これらのジャンルで、原書で読んだ本は何冊くらいありますか？

※ 課題訳文およびアンケートは3月31日（火）15:00までに「洋書の森」事務局へメールでお送り下さい。

◆講師略歴◆

■原田 勝（はらだ・まさる）

1957年、神奈川県平塚市生まれ。東京外国語大学ロシア語学科卒業後、機械メーカーに9年間勤務し、据付工事関連の仕事でイ・イ戦争中のイラクに1年駐在、また、酷寒のシベリアの冬も体験したが、転勤で東京のオフィス勤務になると、すし詰め通勤列車に耐え切れず（それだけではありませんが……）、退社。学習塾講師をしながらバベル翻訳学院にて金原瑞人氏に師事。現在も塾講師をしながら、児童文学・ヤングアダルト文学の翻訳を手がける。

中学・高校・大学・実業団と続けたソフトテニス下手の横好き、今も継続、週一回ラケットを握っている。浦和レッズサポーター歴17年。サッカーの話を読み訳したのが、『銃声のやんだ朝に』（ジェイムズ・リオードン作）で実現。オートバイ好きで、バイク乗りの話を翻訳したのが、昨年、『ウェストール短編集——真夜中の電話』（ロバート・ウェストール作）中の短編「最後の遠乗り」で実現。現在の愛車はカワサキW400。

主な訳書

『弟の戦争』、『星の使者』、『二つの旅の終わりに』、『ウェストール短編集——真夜中の電話』（以上、徳間書店）、古王国記三部作（『サブリエル』、『ライラエル』、『アブホーセン』）、王国の鍵シリーズ全7巻（以上、主婦の友社）、『エアボーン』、『スカイブレイカー』（以上、小学館）、『秘密のマシン、アクイラ』、『フェリックスとゼルダ』、『ハーレムの闘う本屋 ルイス・ミショーの生涯』（以上、あすなろ書房）、『スピリットベアにふれた島』、『大地のランナー』（以上、鈴木出版）、『月曜日は赤』、『フランケンシュタイン家の双子』（以上、東京創元社）など。

ブログ

「翻訳者の部屋から」 (haradamasaru.hatenablog.com)